

## かぜ症候群に対する漢方薬

### <はじめに>

漢方薬は、一般薬から薬価収載薬まで幅広く使用され、私たちの生活に身近な医薬品である。かぜ症候群（急性上気道炎）の際は「葛根湯」というイメージが強いが、漢方薬は患者の状態や疾患の症状により異なったものを使用することで、よりよい効果を得ることが出来る。今回はかぜ症候群に対する漢方薬についてまとめる。

### <概要>

かぜ症候群に対する漢方薬では体質・体力の強弱を主として薬を検討する必要がある。その中でも、かぜ症候群については特に胃腸の状態に合わせた選択が求められる。

まず初めに、胃腸が丈夫な患者（実証）は、発病初期に発汗がなく高熱で脈が強く緊張もよい状態となることが多い。そのような場合、麻黄を含む漢方薬が適応とされる。麻黄剤が有効な場合、発汗に伴い症状改善することが多い（表1）。麻黄を含有する製剤を使用する際は、胃腸虚弱の場合に胃腸障害が起こりやすく、また高齢者の場合は排尿障害などが見られるため注意が必要である。

表1：胃腸が丈夫な患者に用いる漢方薬

漢方薬名	発熱傾向	症状
葛根湯	発熱	初期で自然発汗がなく、悪寒、発熱、頭痛、肩こりなどのある場合。
麻黄湯	発熱	頭痛、発熱、悪寒、四肢の関節痛、咳嗽があり、自然発汗のない場合。インフルエンザの初期症状にも使用できる。
小青竜湯	冷え	呼吸困難、咳嗽、喘鳴があり、泡沫水様の痰、水様鼻汁等を伴う場合。
麻黄附子細辛湯	冷え	虚弱者で悪寒を伴う発熱（微熱）や手足の冷え、のどの痛みを伴う場合。

一方、胃腸虚弱な患者（虚証）では、感冒初期にじわじわと汗が出て熱はそれほど高くなく、脈は振れやすいが緊張が弱い状態となる。そのような場合に対しては以下の漢方薬を使用することが多い。（表2）

表2：胃腸が虚弱な患者に用いる漢方薬

漢方薬名	発熱傾向	症状
桂枝湯	発熱	頭痛、発熱、悪寒を伴い、自然発汗のある場合。
真武湯	冷え	新陳代謝が低下した胃腸障害の場合。
香蘇散	-	胃腸虚弱で、抑うつ傾向のある場合。
桔梗湯	-	咽頭が腫れ、全身症状がない場合。

かぜ症候群が長引いた場合や他の症状がある場合、小児や高齢者、妊婦の場合は上記以外の漢方薬を推奨することがある。セルフメディケーションが増えていく中で、患者背景に考慮して患者に合った薬を検討することが重要である。

参考文献：ツムラ製薬会社HP、「漢方治療のファーストステップ」改訂2版（南山堂）